

令和5年度

事業報告書

特定非営利活動法人 日本プール利用推進協会

1 事業の成果
令和5年度は、団体の活動を多くの人に知っていただくために広報事業に力を入れ、支援を得ることでイベントを実施していった。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業 (事業費の総費用【532,448】円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
プール活動の広報事業	アモーレリフティング水中写真撮影会	9月21日	アクアリーナ豊橋	21人	障がい者 健全者	7組	292,448
	写真展	12月2～9日	豊橋市まちなか図書館	4人	障がい者 健全者	一	
水中運動等研究事業	研究方法についての調査	随時	オンライン	3人	一	一	240,000
	プール利用に関わるアンケート	12月2日	豊橋市まちなか図書館	4人	障がい者 健全者	15人	

(2) その他の事業 (事業費の総費用【 0 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	事業費(千円)

〔2023年度を終えて〕

2023年度は、昨年に引き続きアモーレリフティングの開催を、9月17日豊橋市(愛知県)の後援により実施した。また、50mプールと25mプールの2面を借りられたこと、「障がい者」のみでなく障がい者の方と健常者の方がともに楽しめる空間を作り出したいと思い、「プール運動会」も同時開催した。

その後12月にまちなか図書館にて写真展示会と撮影参加者をお招きしてのトークイベントを実施。図書館を訪れた方など30名ほどの方に当日のお話を聞いていただき、日本プール利用推進協会への活動を理解していただくとともに、プール利用に関してのアンケートを実施し研究事業も進めていった。

・4月

アモーレリフティング、プール運動会実施のための協賛獲得のための活動開始

・5月

第一回プール未来会議開催

外部の方2名、正会員4名、ボランティア1名でプール運動会の種目を考案。

3種目(大玉送り、水中ジェスチャー、水中玉入れ)に決まる。

外部の方はプール運動会への参加もご検討いただけることとなった。

・6～8月

アモーレリフティング、プール運動会の参加者・ボランティア募集開始。

ボランティアの応募者が多く、オンラインでの面談などで意思確認と内容説明を実施。

参加者に関しては、車椅子ユーザーの方とインスタライブを実施して周知に努め、5組の方の参加が決まった。

・9月

アモーレリフティング、プール運動会開催(豊橋市)

上記2イベントの実施にあたっては日本プール利用推進協会の正会員とボランティアのほか、イベントのみのボランティアを募集、高校生の方も含め14名の方とともに実行した。

アモーレリフティングに関しては、5組の参加希望者の撮影を実施した。

100kg近くあるパートナーを持ち上げる車椅子の女性や、車椅子の娘さんと同じ目線で写真に映る70代のお母様、いつも支えてくれる仲間や親子3代で参加する方などが思い思いのポーズで写真撮影に挑んだ。

午前と午後の間に行ったプール運動会の参加者や地元メディアの方々も撮影の様子を見ていただいております、昨年度は撮影者と私たちだけだった空間に多くの人の存在があることで撮影の様子をより知っていただく機会となった。

プール運動会には撮影参加者の方も加わり、プール大玉送り・水中ジェスチャー・水中玉入れの3種目を実施した。この3種目は5月に行ったオンラインイベント「プール未来会議」にて、一般の方とともに考案したものである。

3～70代の方まで、障害の有無や年齢に関係なくともに楽しむ時間を過ごすことができた。

撮影される側もボランティアもこの日が対面での初対面だったが、撮影に臨む気持ちは高く安全への配慮はもちろん撮影者の方をボランティアの方が励ましたり、撮影者の方も長時間の撮影にも関わらず笑顔で答えたりといった場面が多く見られ、撮影の過程自体がプールの持つ力を示しているように感じられた。

今回の実施にあたっては、地元企業の協賛もいただき実施が実現した。

昨年に比べ、より多くの人の関わりによって実現したイベントだったと思う。

・12月

9月に開催したアモーレリフティング水中写真撮影会の写真展を開催しているまちなか図書館にて、

アモーレリフティングトークイベント ～水中の世界で感じたこと～を開催。

当日撮影に参加した2組の方を登壇者としてお招きし、撮影の裏側、愛する人を持ち上げた感想、どんなプールがあったらいいかなどをお話しいただく。

参加者の方の中にはこの日初めて水中写真を見た方もおり、「こんな風に写っているのね！」などの、喜びの声を聞くことができた。

イベントでは、参加者の方からのご質問に撮影参加者がお答えしたり、撮影した当協会副代表理事の西川から撮影の裏側のお話をするなど、会場の方との交流や理解を深めることができた。

また会場では研究活動として、プール利用に関するアンケートも実施した。

イベント終了後も、メディアの方をはじめ参加者の方と登壇者の方々でのお話が弾み、大盛況のイベントとなった。

・2月

当協会副代表理事西川と正会員の中西をゲストとして、第2回プール未来会議を実施。

正会員、ボランティアの他、一般参加者5名も参加して、ゲストが考えるプールの課題やプールの魅力の魅力について考える内容となった。

企画・運営は学生ボランティアの方が実施。反省点は多かったが、このイベントを機に繋がりができ活動を知ってもらうこともできた。

後日参加者の方に個別ヒアリングを行い、今後の活動に関して参考となる意見をいただくこともできた。

今回できたつながりを今後にも生かしていける仕組みづくりを、新年度は行っていきたい。

〔総括〕

今年は豊橋市の後援を得てアモーレリフティングを開催することができた。

また、同時開催のでプール運動会も多くの人参加で成功に終わったと考えている。

2つのイベントを通じて一番印象的だったのは「ボランティアの方々の力」である。

1人1人が懸命にその場でできることを考え、参加者を励ましたり盛り上げたりしていることが、イベントの大きな力となった。

こういった「何かをしたい」という思いを集め、形にするための仕組みづくりを日本プール利用推進協会が行うことで、さまざまな変化が生まれてくるのだと思う。

2024年度は研究やこういった「仕組み、組織作り」に注力し、ビジョンの達成に向かって前進していく年としたい。

イベントによって、それまで関わることのなかった方との交流が生まれたことは非常に意味のあることであり、上記の取り組みと合わせてそれらのつながりを維持するための活動の報告なども継続的に行える仕組みづくりも併せて実施していきたい。